

日本骨代謝学会
会員各位

令和3年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

令和2年は、夏に東京オリンピック、パラリンピックが開催された年として記憶されるはずでした。しかし、COVID-19のために状況は一変し、困難に立ち向かわざるを得ない年となりました。会員の先生方の研究活動や業務にも、様々な支障があったものと推察いたします。日本骨代謝学会の活動も、大きな変更を余儀なくされました。学術集会はオンラインとなり、Skeletal Science Retreatは中止とせざるを得ませんでした。オンラインの学術集会は、例年のオンサイトの学会とは勝手が異なり、会員の先生方に十分な情報を提供できなかったのではないかと危惧しています。

このような状況下ではありますが、やはりオンラインとなりました ECTS や ASBMR への travel award(実質上は参加登録費補助)や若手研究者助成などの研究費助成、ECTS や ANZBMS、KSBMR などとの交流など、例年通りの活動は継続してきました。また日本骨代謝学会が創立メンバーの一つである IFMRS(<https://www.ifmrs.org/>)は、新たな CEO を迎え、より幅広い活動を展開しようとしています。さらに広報委員会委員長の中島友紀先生などの御尽力により、日本骨代謝学会のホームページ(<http://jsbmr.umin.jp/>)では、多くの新規情報が発信されてきています。これらの活動は、本年も継続して行うこととしています。本年3月には、IFMRSの活動の一環として、H Fleisch Workshopがオンラインで開かれます。10月に予定されています学術集会に関しましても、昨年の学術集会の反省をふまえ、学会長の西村理行先生がよりよい学術集会を目指し、鋭意準備を進められています。

日本骨代謝学会は、専門の異なる多くの先生からなる学際的学会です。学会活動は、会員の先生方にとって意義のあるものである必要があります。一方先生方の学会への寄与が、科学を進歩させる大きな推進力となり得ます。引き続き、日本骨代謝学会へのご支援をよろしくお願い申し上げます。まだまだ先が読めない状況が続く中ではありますが、会員各位のご健康と、本年が皆様にとりましてより良き年となりますことを祈念しつつ、年頭のご挨拶とさせて戴きます。

日本骨代謝学会理事長 福本誠二

(徳島大学先端酵素学研究所藤井節郎記念医科学センター)